

佛國
商事會社條例
完

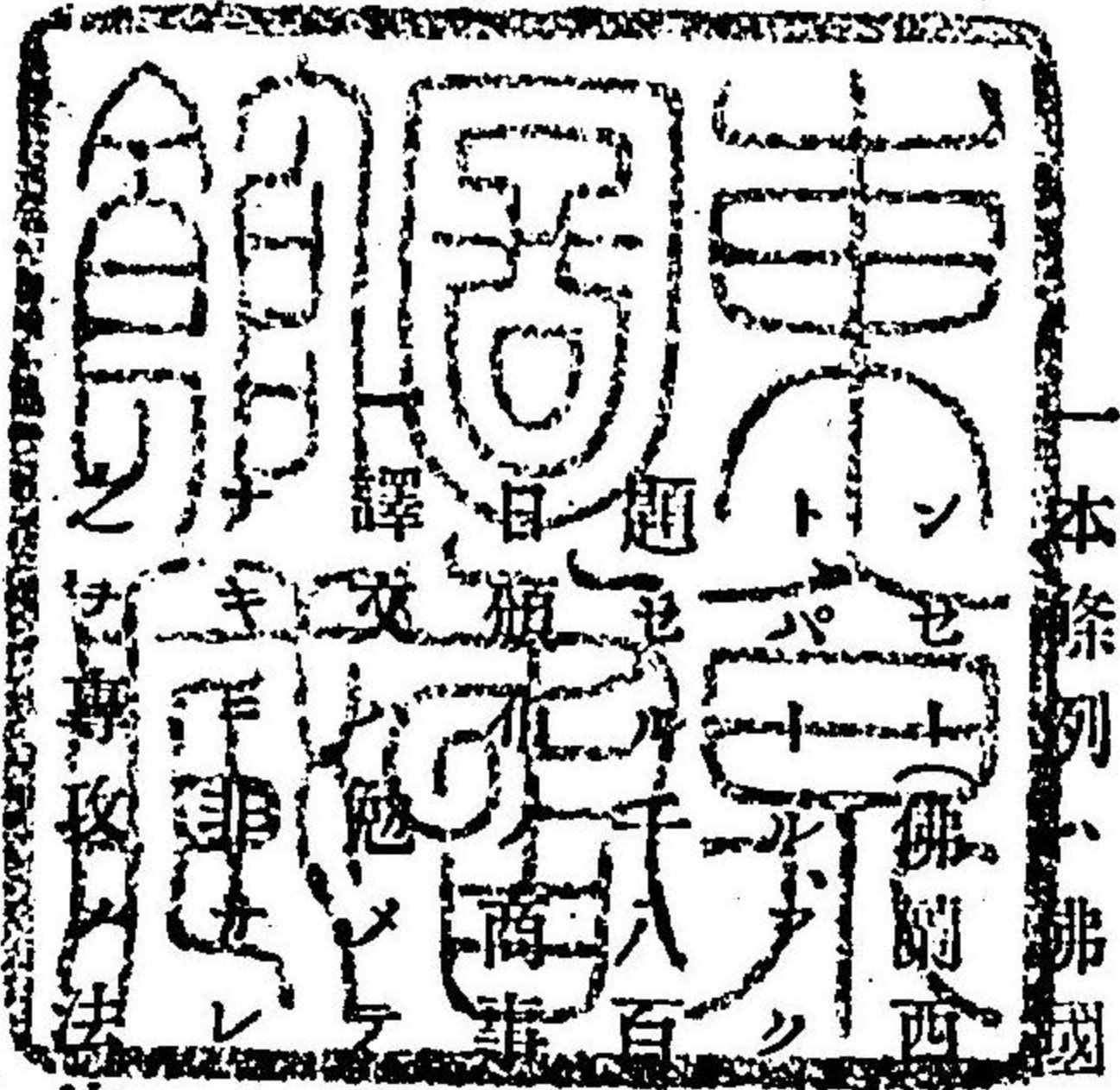
19
62

CF2
863
01





19-62 No. 12668



モスルナシ

凡例

一本條列ハ佛國トリビエー氏ノ編纂ニ係ルコト
 法典中テ、ソシエター、アソ、コンマンギッ
 シヨソ、デキテルミチー、パール、デ、ロアト
 六十七年七月廿四日議決同年同月廿九
 會社ニ關スル規則ヲ抄譯シタル者ナリ
 用語ノ適實ヲ期スレトモ問々慣用セル者
 ハ其允當ナルバ之ヲ採リ其然ラサルハ
 法律學士ニ叩キ改正シテ之ヲ用ヒ敢テ荷



CF2
863
01

會社法目錄

第一章 株式差金會社

第二章 无名會社

第三章 不定資本會社ニ關スル特別規則

別規則

第四章 會社設立證書ノ公示ニ關スル規則

共濟及ヒ保險會社

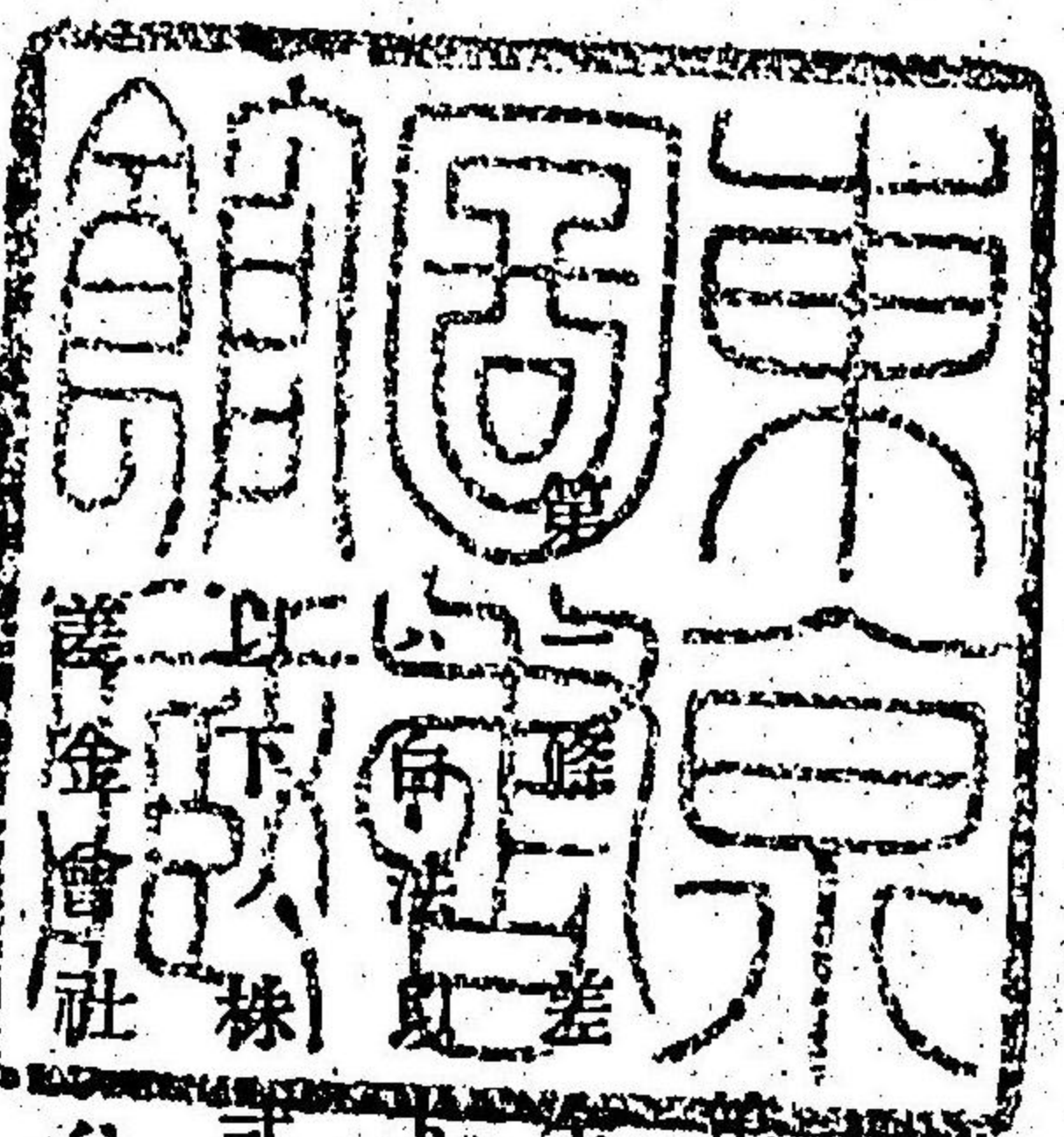
第五章

佛國商事會社條例

千八百六十七年七月廿四日議決
同年同月廿九日頒布

森 順 正 校 閱

岡 安 平 九 郎 譯



第一章 株式差金會社

會社ハ資本二十萬法以下ナルキ

又二十萬法以上ナルキハ五百法

若クハ部株ニ別ツテ得ス

資本全額ノ申込アルノミナラス

少クモ各株主ノ申込タル株高四分一ノ拂込

アリタル後ニ非レハ確立セラル、ヲ得ス
 申込及ヒ拂込ハ支配人ノ陳述ニ依リ公證人
 之ヲ證記ス
 陳述書ニハ申込人名簿拂込明細書創立證書
 及ヒ其私證書ナルキハ複本一通或ハ公證書
 ナルキハ其陳述ヲ受ケタル公證人外ノ公證
 人ノ作リタル謄本ヲ添付ス可シ
 私證書ハ社員ノ數ニ拘ワラス原本二通ヲ作
 リ其一通ハ前項ニ示スカ如ク資本金申込及

四分一拂込ノ陳述書ニ添付シ他ノ一會ハ通
 社ニ留ム

第二條 株式又ハ部株ハ四分一拂込ノ後ハ取
 引セラル、ヲ得

第三條 株式又ハ部株ハ其半額拂込ノ後株主
 總會ノ協議ヲ經テ無記名株式ニ變更スルコ
 ヲ約定スルヲ得

右ハ會社創立規約書ノ該定款アルキニ限ル
 モノトス

株主總會ニ協議後株式ノ記名コテ存スルト
 無記名ニ變セラル、トニ拘ワラス半額拂込
 ノ前株式ヲ讓渡シタル最初ノ申込人及ヒ其
 讓受人ハ株主總會ノ協議ニ依リ二年間該株
 式全額ヲ辨濟スルノ責任アリトス

第四條 社員金圓ニ非ルモノヲ以テ供資トシ
 又ハ自己ノ爲メ格段ナル利得ヲ要約スルキ
 ハ第一株主總會ニ於テ供資ノ價額又ハ要約
 セラレタル利得ノ原山ヲ檢定セシム會社ハ

更ニ召集セラレタル第二株主總會ノ該供資
 若クハ利得ヲ認可シタル後ニ非サレハ確立
 セラレサルモノトス

第二株主總會ハ少クモ會議ノ五日日前ニ報告
 書ヲ印刷シ之ヲ株主ノ手許ニ送附シタル後
 ニ非ザレハ供資若クハ利得ノ認可ノ當否ヲ
 判定スルヲ得ス

議事ハ參會セル株主多數ノ同意ニ依テ決定
 ス多數ハ株主全員ノ四分一ヲ占メ金圓上資

本ノ四分一ヲ代表スヘキモノトス供資ヲ爲シ若クハ特別ノ利得ヲ要約シテ此事ヲ總會ノ檢定ニ付シタル社員ハ發議權ヲ有セス認可ナキ場合ニ於テハ會社ハ諸社員ニ對シ無効タル可シ認可ハ後ニ詐欺ノ原由タルヘキ訴權執行ノ妨害ヲラス金圓ヲ以テセル供資ノ檢定ニ關スル本條ノ規則ハ該供資ヲ受クル會社カ之ヲ未分ニテ

所有スル者ノミノ間ニ創立セラル、場合ニ適用セス

第五條 株式差金會社ニ取締役ヲ置クヘシ取

締役ハ少クモ株主三人ヨリ組織セラル可シ取締役ハ會社確立ノ後其諸般ノ事業ヲ行フ前直ニ株主總會ニ於テ任ス可シ取締役ハ職務ノ滿期ニ會社創立規約ニ定メタル條件ニ從ヒ再撰ヲ受ク然レモ最初ノ取締役ハ任期一個年ヲ限リトス

第六條 最初ノ取締役ハ其任ヲ受クルヤ直ニ前數條ノ規則ヲ遵守シタリヤ否ヤヲ審査ス可シ

第七條 第一條乃至第五條ノ規則ニ違ヒ設立セラレタル株式差金會社ハ關係人ニ對シテ無効ナリ

社員ハ此無効ヲ以テ第三者ニ對抗スルヲ得ス

第八條 前條ニ從ヒ會社ノ無効タリシキハ最

初ノ取締役ハ會社若クハ第三者ニ對シ會社ノ無効ヨリ生スル損害ニ付支配人ト共ニ任ス可シトノ宣告ヲ受クルコトアル可シ
社員中供資若クハ利得ノ第四條ニ循ヒ審査及ヒ認諾セラレサル者ニ對シテハ前項ト同シキ責任ヲ宣告スルコトヲ得

第九條 取締役ハ管理(會社)及ヒ其結果ニ付テハ何等ノ責任ニ任セス
取締役ハ委任執行中自身ノ爲シタル過失ニ

付普通法ノ規定ニ循ヒ責ニ任ス

第十條 取締役ハ會社ノ帳簿、金庫、手形類、及ヒ價物ヲ調査ス取締役ハ毎年株主總會ニ報告ヲ爲ス該報告ニハ目錄上ノ不規則不精密ヲ記述シ又必要アルキハ支配人ノ起按セル配當金ノ分付ニ抵觸スル理由ヲ証記ス可シ配當金取戻訴權ハ何等ノ目錄ヲモ作ラズ若クハ証明スル結果ニ從ハスシテ配當金ノ分付ヲ爲シタル場合ニ非サレハ株主ニ對シテ

行フヲ得ス

取戻訴權ハ其開始セル場合ニハ配當金分付ノ爲メ定メラレタル日ヨリ起算シ五年ヲ以テ時効トス

本條例頒布ノ日時効既ニ開始シ舊法ニ循ヘハ本條例頒布ノ日ヨリ起算スルモ尙ホ五年以上ヲ要スル者ハ五年ヲ以テ成就ス可シ
第十一條 取締役ハ株主總會ヲ召集シ總會ノ意見ニ從ヒ會社ノ解散ヲ言立ルヲ得

第十二條 株主ハ少クモ總會議ノ十五日前ニ
 自身若クハ代人ヲ以テ會社ニ於テ結算明細
 書目錄及ビ取締役ノ報告書ヲ閱覽スルヲ得
 第十三條 本條例第一乃至第三條ノ規定ニ背
 キ創立セラレタル會社ニシテ株券又ハ部株
 券ヲ發行スルキハ五百法以上一萬法以下ノ
 罰金ヲ科ス
 左ニ列記セラレタル者亦同シ
 支配人ニシテ未ダ取締役ノ職務ヲ執ラサル

前社業ヲ始ル者

株又ハ部株ノ自身ニ屬セサルモノヲ屬シタ
 ルカ如ク視セ詐欺ヲ以テ株主總會ニ於テ人
 爲ノ多數ヲ作リタル者但シ爲メニ損害ヲ生
 セシキハ會社又ハ第三者ニ對シ其賠償ヲ爲
 ス可シ
 詐欺ノ使用ヲ爲ス爲メ株券ヲ交附セシ者前
 二項ニ定メタル場合ニ於テハ罰金ノ外十五
 日以上六月以下ノ禁錮ノ刑ヲ言渡スヲアル

可シ

第十四條 株又ハ部株四分一ノ拂込ヲ實際ニ爲サスシテ之ヲ取引スルキハ五百法以上一萬法以下ノ罰金ヲ科ス
右ノ取引ニ參加シ及ヒ右ノ株式ヲ廣告シタル者亦同シ

第十五條 左ニ掲グル者ハ刑法第四百五條ニ定メタル刑ニ處セラル但シ詐欺取財ヲ組成スル一切ノ所爲ニ本條ヲ適用スルニ付抵觸

スルヲ無ル可シ

一 申込又ハ拂込ヲ爲シタル如ク視セ若クハ尙ホ未ダ成立サル申込又ハ拂込ノ廣告又ハ其他總テ僞妄事件ノ公示ヲ惡意ニテ爲シ以テ申込又ハ拂込ヲ受ケ又ハ受ケント試ミタル者

二 申込又ハ拂込ヲ誘惑スル爲メ或ル名義ヲ以テ會社ニ附屬ストシ又ハ附屬スヘシトシテ事實ニ戻リテ指示セラレタル人ノ氏名

ヲ惡意コテ公示シタル者

三 目錄ナシ又ハ詐欺ノ目錄ヲ以テ株主間

ニ仮想ノ配當金ノ分附ヲ爲シタル支配人

取締役ハ支配人ノ犯罪ニ付民法上ノ責ニ任

セズ

第十六條 刑法第四百六十三條ハ前三條ニ記

載シタル所爲ニ適用スルヲ得

第十七條 株主ニシテ少クモ會社ノ資本二十

分一ヲ代表スルキハ自身ノ利益ノ爲メ自費

ヲ以テ一名又ハ數名ノ代人ヲ委任シ原告若

シハ被告トシテ支配人又ハ取締役ニ對シ訴

權ヲ維持セシメ且ツ裁判所ニ於テ代理セシ

ムルヲ得但シ各株主ノ其名義ヲ以テ自ラ訴

訟ヲ起スルニ抵觸スル無ル可シ

第十八條 千八百五十六年七月七日ノ法律以

前ニ創立シタル會社ニシテ本條例第十五條

ニ適合セサル者ハ六月ノ猶豫期限内ニ前數

條ノ規定ニ循ヒ必ス取締役ヲ置ク可シ前項

ニ定メタル猶豫期限内ニ取締役ヲ置カサル
キハ各株主ハ會社ノ解散ヲ宣告セシムルノ
權アリ

第十九條 本條例頒布以前ニ創立シタル株式
差金會社ニシテ其創立規約書ニ因リ政府ノ
認可セル元名會社ニ變更スルヲ得ル者ハ本
條例第二章ニ定メタル法條及ヒ變更ニ付創
立規約書中ニ望約シタル條件ニ循ヒ無名會
社ニ變更セラル、ヲ得

第二十條 千八百五十六年七月十七日ノ法律
ハ之ヲ廢止ス

第二章 元名會社

第二十一條 自今元名會社ハ政府ノ許可ナク
シテ組織セラル、ヲ得ヘシ
無名會社ハ其社員ノ數如何ノニ拘ワラス二
通ノ正本ヨリ成ル私證書ヲ以テ組織セラル
、ヲ得可シ

又元名會社ハ商法第二十九條第三十條第三

十二條第三十三條第三十四條及ヒ第三十六條并ニ本章ニ規定シタル以下ノ諸條例ニ從フ

第二十二條 无名會社ハ社員中ヨリ撰任シ任期ヲ定限シタル一名若クハ數名ノ代人ニ依テ支配セラルル其代人ハ有給若クハ無給ニシテ何時ニテモ之ヲ廢止スルヲ得此代人ハ同役中ヨリ一名ノ頭取ヲ撰定シ若クハ會社規約書ニ於テ認可スルキハ社員外

ノ人ヲ以テ其職務ニ代ラシムルヲ得但シ會社ニ對スル責任ハ自身之ヲ負担ス可シ

第二十三條 社員ノ數七名以下ナルキハ無名會社ハ組織セラル、ヲ得ス

第二十四條 本條例第一條乃至第四條ノ法條ハ无名會社ニ之ヲ適用ス

第一條ヲ以テ有名會社ノ支配人ニ命シタル公示ハ無名會社ニ於テ其發起人之ヲ爲スヘシ且ツ其公示ハ必要ナル書類ト共ニ之ヲ最

初ノ株主總會ニ付ジ其真否ヲ調査セシム
 第二十五條 株主總會ハ如何ナル場合ニ於テ
 モ資本ノ申込及ヒ現金ヨリ成立スル資本四
 分一ノ拂込ヲ認メタル後發起人ノ請求ニ因
 テ召集セラレ此總會ニテ最初ノ支配人ヲ撰
 任シ且ツ初期ノ爲メ以下第三十二條ニ規定
 シタル報告委員ヲ撰任ス
 支配人ノ任期ハ六箇年ヲ超ユルヲ得ス且ツ
 反對ノ約束アラサルキハ之ヲ再撰スルヲ得

然レモ其撰任ヲ株主總會ノ認可ニ付セサル
 へキ明約ヲ規約書ニ指定スルヲ得此場合ニ
 於テハ其任期三箇年ヲ超ユルヲ得ス
 總會ニ出席セタル支配人及ヒ報告委員ノ承
 諾ハ議事録中ニ之ヲ記載ス
 會社ハ此承諾アリタルキヨリ組織セラレ可
 シ

第二十六條 支配人ハ規約書ニ定メタル株數
 ノ所有者タルヘシ支配人所有ノ株券ハ其社

務管理ノ所爲ニ就テハ勿論尙ホ支配人中一
身上ノ所爲ニ付担保ニ供セラル可シ
右ノ株券ハ記名ニシテ讓渡スヘカラサルモ
ノトス且ツ其券面ニ不讓渡ヲ指示シタル證
印ヲ付シテ會社ノ金庫ニ貯藏ス

第二十七條 規約書ニ定メタル時機ニ於テ每
年少クモ一回ノ總會ヲ開クヘシ且ツ所有主
ノ名義タルト代人ノ名義タルトチ問ハス議
員ノ資格ヲ得ル爲メ株主ノ所有スヘキ株數

并ニ其所有ノ株數ニ應シテ各自株主ノ有ス
ヘキ投票ノ數ハ規約書ニ之ヲ定限ス
然レモ社員各自供資ノ調査最初ノ支配人ノ
撰任及ヒ第二十四條第二項ニ從ヒ發起人ノ
爲シタル廣告眞否ノ調査ニ關シテ召集スル
總會ニ於テハ株主ハ其所有ノ株數ニ拘ワラ
ズ總テ規約書ニ定メタル投票ノ數ヲ以テ議
決議ニ與ルヲ得且其數十票ヲ超ユルヲ得ス
第二十八條 總會ノ議決ハ總テ投票ノ多數ニ

據ル可シ

且株主名簿ヲ製シ之ニ其住所氏名及ヒ所有ノ株數ヲ記載ス

總會ニ於テ檢認シタル株數名簿ハ會社ニ保存シ閱覽ヲ請フ者アル毎ニ之ヲ示ス可シ

第二十九條 左ノ二條ニ豫定シタル場合外ノ

事件ヲ議決スヘキ總會ハ少クモ資本四分一ヲ代表スル株主ノ數ヨリ組成セラル可シ

又右ノ總會ノ出席員數前項ニ定限シタル株

主ノ數ニ滿タサルキハ規約書ニ規定シタル

法式及ビ期限ニ從ヒ更ニ總會ヲ召集ス且ツ

此總會ハ其出席株主ノ代表シタル會社資本

ノ金額如何ニ拘ワラス有効ニ決議スルヲ得

第三十條 社員供資ノ調査最初ノ支配人ノ撰

任及ビ第二十四條第二項ニ從ヒ會社發起人

ノ爲シタル公示眞否ノ調査ニ關シ決議スヘ

キ總會ハ少クモ資本ノ半額ヲ代表スル株主

ヨリ組成セラル可シ

調査半額ノニ提出セラルヘキ資本ハ單ニ調査ニ附スルヲ要セサル供資殘半額ヨリ組成セラル可シ
 總會ノ出席員數資本ノ半額ヲ代表スル株主ノ數ニ充タサルキハ只假ノ議決ヲ爲ス其議決ハ正式ノ公示ヲ爲サンカ爲メ指定シタル新聞紙上總會ノ開日ヨリ少クモ一月前ニ八日ヲ隔テ、二回公示シ各株主ヲシテ之ヲ知ラシム可シ且ツ此假議決ハ少クモ資本五分

一ヲ代表スル株主ヨリ組成セラレタル新總會ノ認可ヲ經テ確定ス

第三十一條 規約書ノ改正豫定期限外ニ係ル會社ノ繼續若クハ豫定期限内ニ係ル會社ノ解散ニ關シテ議決スヘキ總會ハ少クモ資本半額ヲ代表スル株主ヨリ成レルニ非サレハ組織シ且有効ニ議決スルヲ得ス

第三十二條 期年總々ハ其社員タルト外人タルトヲ問ハス一名若クハ數名ノ報告委員ヲ

指定ス其委員ハ次年ノ總會ニ於テ前年度ニ
 係ル會社ノ、狀況、貸借ノ決算及ヒ支配人ヨリ
 提出シタル勘定ノ報告ヲ爲スノ職ニ任ス
 決算及ヒ勘定ノ包含シタル議決ニシテ報告
 委員ノ報告前ニ係ルモノハ總テ無効タル可
 也
 總會ニ於テ報告委員ヲ撰任ヒサルカ若クハ
 既ニ撰任シタル委員中一名若クハ數名ノ任
 命ヲ拒絕シタルキハ關係人ノ請求ニ因リ會

社所在地ノ商事裁判所長ノ命令ヲ以テ支配
 人立會ノ上之ヲ撰任シ若クハ之カ欠員ヲ補
 撰ス可シ

第三十三條 總會召集ニ付規約書ニ定メタル
 期限前三ヶ月以内ハ報告委員ハ會社ノ利益
 ニ適當ト思量スル毎ニ諸帳簿ヲ閱覽シ且ツ
 社務ヲ檢査スルノ權利ヲ有ス
 又委員ハ急迫ノ場合ニ於テハ何時ニテモ臨
 時總會ヲ召集スルヲ得

第三十四條 凡無名會社ハ一期(六ヶ月)毎ニ其

貸借ノ概況書ヲ作ル可シ

此概況書ハ委員ニ差出スヘキモノトス

其他商法第九條ニ從ヒ毎年動産、不動産及ヒ

貸借高ヲ明示セル目錄ヲ作ル可シ

此目錄、結算明細書及ヒ計算書ハ總會ノ開日

ヨリ遅クモ四十日前ニ委員ニ差出ス可シ又

此目錄、結算明細書、損益計算書ハ總會ニ提出

スヘキモノトス

第三十五條 株主ハ總會開日ヨリ遅クモ十五

日前ニ本社ニ至リ目錄及ヒ株主人名簿ヲ閱

覽シ、結算明細書ノ寫、目錄ヲ略及ヒ委員ノ報

告書ノ寫ヲ求ムルヲ得ヘシ

第三十六條 會社ノ純益中ヨリ豫備金ニ充ル

爲メ少クモ其二十分ノ一ヲ毎年控除ス可シ

此控除ハ豫備金額資本十分一ニ達シタル時

ハ必スシモ之ヲ爲スニ及ハス

第三十七條 資本四分ノ三ノ損耗アル場合ニ

於テハ會社ノ解散ヲ爲ス可キヤ否ヤノ問題
 ナ決スル爲メ支配人ヨリ株主總會ヲ召集ス
 可シ
 何レノ場合ニ於テモ總會ノ議決ハ公行ス可
 キ者ノトス
 支配人ノ總會ヲ召集セサルキハ規則ニ違ヒ
 テ總會ヲ構成シタル場合ト同シク關係人ヨ
 リ會社ノ解散ヲ裁判所ニ訟求スルヲ得可
 シ

第三十九條 第十七條ハ無名會社ニモ之ヲ適

用ス

第四十條 支配人ハ會社ト共ニ若クハ會社ノ
 爲メニ爲シタル事業又ハ賣買ニ間接若クハ
 直接ノ利益ヲ得又ハ之ヲ保存スルヲ禁ス但
 シ總會ニ於テ之ヲ認可シタル場合ハ此限ニ
 在ラス

前項ノ法文ニ循ヒ總會ノ認可ヲ經タル工商
 業ノ執行ニ係ル特別計算ハ毎年總會ニ於テ

之ヲ爲ス可シ

第四十一條 第二十二條乃至第二十五條ノ規定ヲ遵守セサル無名會社ハ總テ關係者ニ對シ無効ナリトス

第四十二條 前條ニ從ヒ會社又ハ證書及ビ總會議決ノ無効言渡アリタルキハ其責任ノ無効ヲ負フ創立者及ヒ無効言渡ノ當時在職ノ支配人ハ第三者ニ對シ連帶シテ責任ヲ負フ可シ但シ株主ノ權利ト抵觸スルヲ無ルヘシ

右同一ノ連帶責任ハ第二十四條ニ從ヒ供資及ヒ利益ノ調査ヲ徑及認可ヲ受ケサル社員ニ對シテ言渡スヲ得ヘシ

第四十三條 會社ニ對スル委員責任ノ區域及ヒ其効果ハ代理委任ノ一般ノ規則ニ從フ
第四十四條 支配人ハ本條例ノ犯則或ハ其管理事件就中仮想ノ配當ヲ爲シ又ハ人ノ之ヲ爲スヲ知テ故障ヲ申述サル罪過ニ付普通法ノ條目ニ從ヒ場合ニ因リ各自若クハ連帶ニ

テ會社又ハ第三者ニ對シテ責任ヲ負フ可シ
 第四十五條 本條例第十三條乃至第十六條ノ
 規定ハ現ニ存在スル會社ト本條例ニ因テ設
 立ス可キ會社トノ別ナシ總テ无名會社ニ適
 用ス可シ目錄ヲ作ラサルカ又ハ詐欺ノ目錄
 ヲ作り仮想ノ配當ヲ爲シタル支配人ハ同一
 ノ所爲アル差金會社ノ支配人ニ對スル第十
 五條第三項ノ規定ニ從テ之ヲ處斷ス可シ
 第十條最終三項ノ規定モ亦无名會社ニ適用

ス

第四十六條 現ニ存在無名會社ハ其繼續ノ間
 ハ從前ノ規則ニ從フ可シ
 前項ノ無名會社ハ政府ノ許可ヲ得且其社則
 ノ變更ニ付キ定メタル法式ヲ履行シ本條例
 ニ導ヒ設立シタル無名會社ニ更改スルヲ得
 得可シ

第四十七條 有限責任會社ハ其社則ノ變更ニ
 付定メタル條件ニ從ヒ本條例ヲ以テ設立シ

タル無名會社ニ更改スルヲ得可シ
商法第三十一條第三十七條第四十條及ヒ有
限責任會社ニ關スル千八百六十三年五月二
十三日ノ法ハ之ヲ廢止ス

第三章 不定資本會社ニ關スル特
別規則

第四十八條 凡ソ資本ハ規約書ヲ以テ社員漸
次ノ拂込又ハ新社員加入ニ依テ増加シ及ヒ
既ニ拂込ミタル供資ノ全部若クハ一部ノ規

約書取戻ニ依リ減少シ得可キ旨ヲ要約スル
ヲ得

前項ノ要約ヲ掲クル會社ハ其特別ナル体裁
ニ從フノ外下條ノ規定ニ從フ可シ

第四十九條 資本ハ創立規約書ヲ以テ二十萬
法以下ト爲スヲ得ス

資本ハ毎年開會スル總會ノ協議ニ依リ増加
スルヲ得但シ一回ノ増加額二十萬法ヲ超過
スルヲ得ス

第五十條 株式又ハ部株ハ其全部拂込ノ後ト雖ヒ必ス記名タル可シ此株式又ハ部株ハ一個ニ付五十法以下タルヲ得ス株式及ヒ部株ハ會社確立後ニ非サレハ取引ヲ爲スヲ得ス

右ノ取引ハ會社ノ帳簿上株式移轉方法ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス且規約書ヲ以テ此移轉ニ故障ヲ爲スノ權利ヲ管理役又ハ總會ニ與フルヲ得

第五十一條 第四十八條ヲ以テ許可シタル供資ノ取戻ニ依テ若干ノ金額以下ニ資本ヲ減シ得サル旨ヲ規約書ニ定ム可シ

前項ノ金額ハ會社資本ノ十分ノ一以下タルヲ要ス

不定資本會社ハ資本金額十分一ノ拂込後ニ非サレハ確立スルヲ得ス

第五十二條 各社員ハ反對ノ契約アル場合及ヒ前條第一項ノ場合ヲ除キ自身ノ適當ナリ

ト斷定スル時退社スルヲ得可シ
 總會ハ規約書ノ變更ノ爲メ定メタル多數決
 ニ依リ一名若クハ數名ノ社員ノ退社ヲ決ス
 ルノ權ヲ有スル旨ヲ要約スルヲ得
 自ラ好シテ退社シ又ハ總會ノ決議ニ依リ退
 社セシメラレタル者ハ社員及ヒ第三者ニ對
 シテ退社ノ當時既ニ存在シタル義務ヲ五ヶ
 年間担当ス可シ

第五十三條 會社ハ其体裁ノ如何ノヲ問ハス

其支配人ヲシテ裁判所ニ於テ有効ニ代理セ
 シムルヲ得

第五十四條 會社ハ社員一名ノ死去、退社、禁治
 産、倒産、又ハ分散ニ由テ解散スルヲナシ

第四章 會社設立證書ノ公示ニ關
 スル規則

第五十五條 凡ソ商事會社ノ設立ハ私證書ヲ
 以テシタルキハ正副二通、公證書ヲ以テシタ
 ルキハ謄本一通ヲ其假立シタル月内ニ會社

所在地ノ治安裁判所及ヒ商事裁判所ノ書記
局ニ差出スヘシ

株式差金會社及無名會社ノ假立証書ニハ第
一、會社資本ノ申込及ヒ資本四分一ノ拂込ヲ
証明スル公証書ノ謄本第二、第四條及ヒ第二
十四條ニ定メタル場合ニハ總會ニテ爲シタ
ル協議ノ確証セラレタル寫書ヲ添付ス可シ
其他無名會社ナルキハ其設立証書ニ各申込
人ノ氏名身分住所及ヒ株數ニ掲クル所ノ適

法ニ確証ヒラレタル申込人名簿ヲ添付ス可
シ

第五十六條 一ヶ月内ニ法律上ノ廣告ヲ掲載
スヘキ新聞紙中ノ一ニ會社假立証書ノ拔書
及ヒ添付書類ノ拔書ヲ公示ス可シ
此拔書ハ印刷者ノ保証シ邑長ノ確認シ及ヒ
日附ヨリ三ヶ月内ニ登記シタル新聞紙一部
ヲ以テ其掲載ヲ証セラル
前條及ヒ本條ニ定メタル法式ハ必ス之ヲ履

行ス可シ然ラサレハ關係人ニ對シ會社設立ノ効無ル可シ然レモ社員ハ是等ノ法式ヲ欠クコトアルモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十七條 拔書ニハ株主又ハ差金以外ノ社員ノ姓名會社ノ名号又ハ會社ニ於テ用ユル名稱及ヒ會社居所ノ町名番地會社ヲ管理シ及ヒ會社ニ代テ署名スル權ヲ有スル社員ノ指名資本額株主又ハ差金社員ヨリ既ニ供出

シ又ハ供出ス可キ金額會社開業ノ年月日同開閉ノ時期及ヒ治安裁判所并ニ商事裁判所ニ書類ヲ差出シタル日附ヲ記ス可シ

第五十八條 拔書ニハ設立スル所ノ會社カ合名會社ナルカ又ハ單純ナル差金會社ナルカ又ハ株式差金會社ナルカ又ハ無名會社ナルカ又ハ不定資本會社ナルカヲ記ス可シ無名會社ナルキハ拔書ニハ金額其他ノ物件ヲ以テスル會社ノ資本額豫備金組成ノ爲メ

純益中ヨリ引去ル可キ金額ヲ不定資本會社ナルキハ若干ノ金額以下ハ資本ヲ減スルヲ得サル限度ヲ掲ク可シ

第五十九條 會社其商店ヲ數郡ニ假立シタルキハ第五十五條ニ定メタル書類差出及ヒ第五十六條ノ公示ハ商店所在ノ各郡ニ於テ之爲ス可シ

數郡ニ區分シタル都府ニ於テハ唯主タル商店所在地ノ治安裁判所書記局ニ書類ヲ差出

スヲ以テ足レリトス

第六十條 証書及ヒ書記局ニ差出ス可キ書類ノ抜書ニハ公証書ナルキハ公証人之レニ署名シ私証書ナルキハ合名會社ニ於テハ社員差金會社ニテハ支配人又無名會社ニテハ管理人之レニ署名スルモノトス

第六十一條 左ノ書類ハ第五十五條及ヒ第五十六條ニ定メタル法式及ヒ罰科ニ從フモノトス

規約書ノ變更豫定期限以外ノ會社ノ繼續豫定期限前會社ノ解散及ヒ精算ノ方法並ニ社員ノ變換又ハ退社及ヒ會社ノ名号ノ變更等ヲ目的トスル各種ノ證書及ヒ決議書

第十九條第三十七條第四十六條第四十七條及ヒ第四十九條ニ定メタル場合ニ爲シタル議決モ亦第五十五條及ヒ第五十六條ノ規則ニ從フ可キモノトス

第六十二條 第四十八條會社資本ノ增加減少

ヲ證明スル證書又ハ第五十二條ニ從テ爲ス所ノ支配人又ハ管理人以外ノ社員ノ退社ヲ證明スル證書ニハ裁判所書記局ニ差出スル法式及公示ノ法式ヲ履行スルニ及ハス

第六十三條 株式差金會社又ハ無名會社ニ關スルモハ何人タリモ治安裁判所及ヒ商事裁判所ノ書記局ニ差出シタル書類ヲ閱覽シ又ハ裁判書記又ハ細字本書ノ預リ人タル公証人ヨリ私費ヲ以テ其謄書又ハ拔書ヲ申受ル

ノ權ヲ有ス

又何人ト雖モ本社ニ至リ一法ヲ超過セサル
費用ヲ拂ヒ保証セラレタル規約書ノ寫書ノ
下附ヲ要求スルヲ得

右差出シタル書類ハ會社ノ事務所ニ於テ公

衆ノ見易キ様揭示スヘシ

第六十四條

無名會社又ハ株式差金會社ヨリ

發スル一切ノ証書賣品覺書公示其他印刷シ
又ハ手記シタル書類ニハ文字ヲ略セスシテ

讀易キ様無名會社又ハ株式差金會社ト書記

シ及ヒ會社ノ資本額ヲ記載シ其前若クハ後
常ニ會社ノ稱号ヲ記スヘシ

若シ會社カ第四十八條ヲ以テ許サレタル權

能ヲ使用シタル時ハ不定資本ノ語ヲ附記ス
可シ

凡ソ前條ノ規定ヲ犯シタル者ハ五十法以上
千法以下ノ罰金ニ處ス

第六十五條 商法第四十二條乃至第四十六條

ハ之ヲ廢止ス

第五章 共濟及ヒ保險會社

第六十六條 共濟ノ性質ヲ有スル結社及ヒ生命共濟又ハ定料プリム保險會社ハ政府ノ許可ヲ受ケ及ヒ政府ノ監督ニ從フ可シ

前項以外ノ保險會社ハ政府ノ許可ヲ受ケスルヲ設立スルコトヲ得可シ行政規則ヲ以テ其設立ニ就テ要スル條件ヲ定ム可シ(千八百六十八年一月二十二日ノ布告)

第六十七條 前條第三項ニ掲ケタルモノニ

テ現ニ存在スル保險會社ハ政府ノ許可ヲ受ケタルニ及ハスシテ唯其社則ノ變更ニ就テ定メタル法式及ヒ條件ニ從ヒ行政規則ヲ以テ設ケタル規則ノ支配ヲ受ク可シ

3/35

明治廿年六月二十日版權免許
全廿一年十月十六日印刷出版

定價金拾貳錢

著者

岡安平九郎

神田區佐久間町三丁目十
三番地

版權所有

發行者

齋藤良翰

本區湯島天神町五丁目
五番地

賣捌人

原田庄左衛門

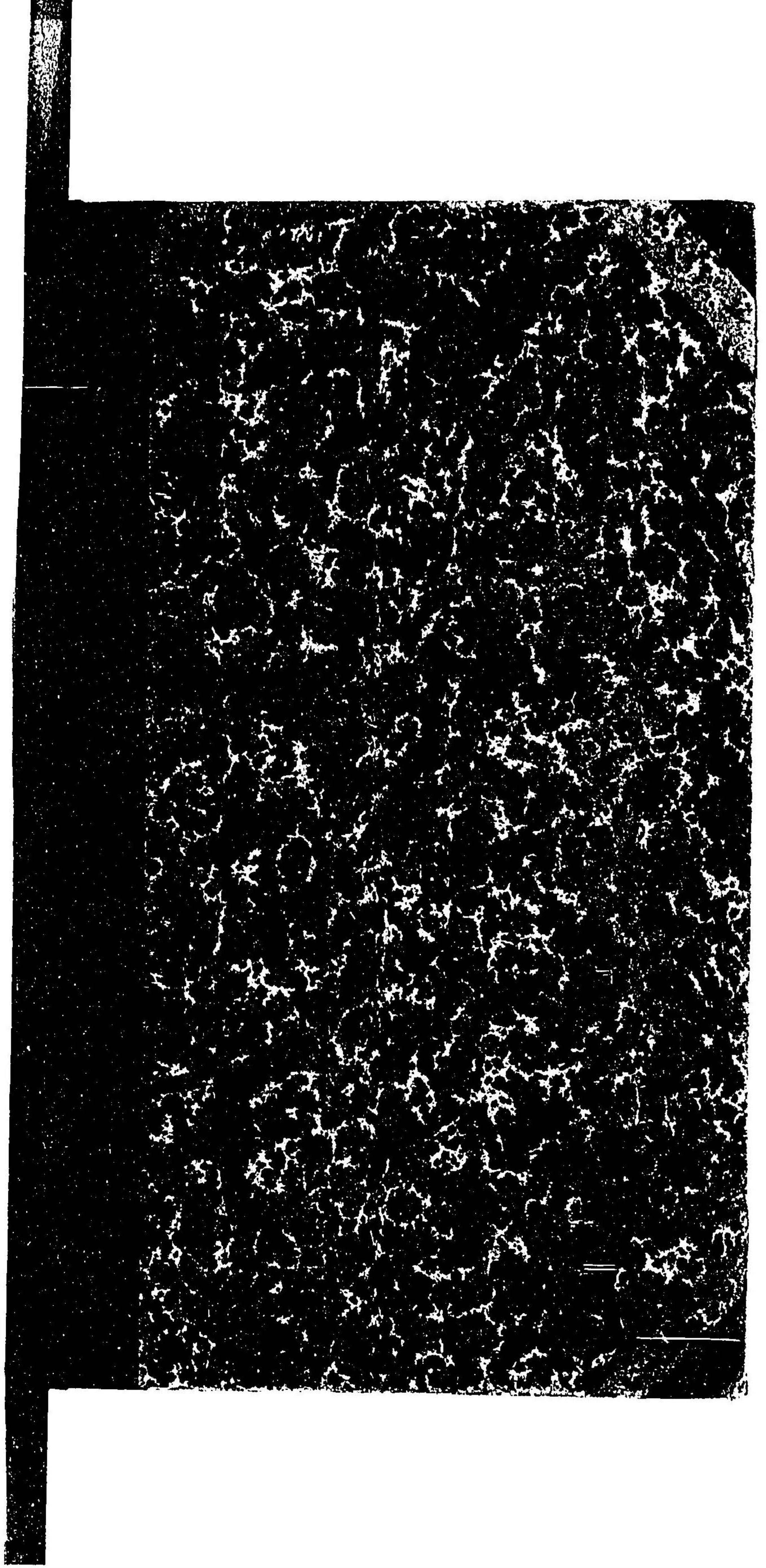
日本橋區久松町拾五番地

印刷者

桑原八郎次

京橋區築地一丁目拾五番
地

19.
62



19
62

CF2
863
01



035407-000-5

CF2-863-01

仏国商事会社条例

トリピュー／編

M21

BBO-0592

